

基調講演：「がんばれ日本の製造業ー日本の製造業は世界最強ー」

政策研究大学院大学 橋本久義教授

- 日本の中小企業について
 - 3,073 先（うち 314 先は中国など発展途上国）の工場訪問実績、企業の現場からは統計では分からないことが見える。
 - 中小企業の社長には「人徳」がなければならない。
- 景気は厳しい局面に？
 - サブプライムローン、政治のねじれ、建築基準法改正等が原因、それでも 1 年程度で回復できる！
 - サブプライムローンの実態（貸出姿勢、投資ファンド全体に占める割合 14/400 兆円）＝それほど大きな影響にはならない
 - 中国・北京五輪後の失速懸念 ⇒ 四川大地震の復興への資本投下により回避か？
- 中国は巨大なブラックホール
 - 日本は中国経済に助けられている、欧米は中国に飲み込まれている（∵吸い込み口のすぐ横のゴミは流れない）
 - 日本の社長にとって、「会社」は金儲けの道具でなく、「会社」は我が子と考えている。だから、私財を投入し、赤字でもなかなかつぶれない。
 - 欧米は赤字になると損切りする（すぐにあきらめる）、本来中国ではできない分野まで「利益がでない」として自国での生産を止めてしまう＝高級・精密分野等
 - 日本はあきらめない ⇒ 中国の影響による欧米の技術・生産の減退から日本向け発注（複雑・高度・精密・面倒な技術を必要とする分野）は逆に増加
- 現在は「場替え」の時代
 - 1989 年冷戦終結による共産圏諸国の市場経済への進出
 - 日本経済は「場替え」を何回も経験してきた（終戦、ニクソンショック、オイルショック、自由化、円高 etc）＝強み
 - 負けを最小限にすることが経営の基本
- 日本の町工場は不況のときに威力を発揮する … 不況時の対応
 - 日本：節約、掃除、勉強、研究開発、新分野、サービス充実→不況脱出時に有効
 - アメリカ：あきらめる、ヨーロッパ：縮小均衡、アジア：ルール変更
- 工場は「工」夫する「場」所
 - 日本の労働者は僅かな進歩を喜ぶ（不良率低下、稼働率上昇、歩留まり改善等）
 - 日本人気質（いいモノを皆でつくろう）がある
- 中小企業の生き残りのキーワード 「複急多安夫連 I 開夢（フクダヤス、ニアカイム）」
 - 複（複数の柱）、急（短納期）、多（多数の顧客：リスク分散）、安（コストダウン）、夫（工夫、技術革新）、連（連携）、I（IT 活用）、開（開発）、夢（夢を実現）
- 日本企業の強み
 - 日本企業の強さ…オンリーワン、ナンバーワンだけではない
 - 本当の強さ…報われることが少なくとも、「良いモノを安く、早く」「顧客が喜ぶモノ」をつくることに取り組んでいる中小企業者の存在

Q&A

【産総研・山崎氏】

Q. 日本企業の海外進出による競争回避（ブルーオーシャン戦略）については、どう思われるか？

A. 進出するのであれば、今のところ中国がお勧め。海外に出るのは決して悪くはないが、日本国内にも、バックアップのしくみや拠点を残すべき。

Q. インドのインパクトは？

A. 中国は漢字等文化的に日本に近い部分が多く階級制度もない。一方、インドでは、カースト制などの名残もあり、中国よりはものづくりには向かないと思われる。

以 上